



# 防長紀行

文書館資料で  
旅する山口県

✳ 13

名所 ⑦

描かれた錦帯橋（「岩国町名所図会」雨村家文書65）

## 「映える」描かれた Yamaguchi

### 《鳥瞰図で「魅せる」》

大正から昭和にかけて、都市の発展や観光地のにぎわいをアピールするために作製された鳥瞰図。その流行のきっかけをつくったのは、「大正の広重」と呼ばれた吉田初三郎(明治17年<1884> - 昭和30年<1955>)でした。友禅染の図案師に学び、商業画家として活動していた初三郎は、鉄道省発行の『鉄道旅行案内』で風景画絵師としての地位をゆるぎのないものとししました。緻密な現地踏査に基づいて構図を決め、下絵を画房所属の弟子筋の絵師との合作により浮世絵風にきらびやかに仕立てました。主題をひきたたせるために大胆なデフォルメを用いたので、見えるはずのない東京や富士山、海の向こうの樺太や朝鮮が描かれることがしばしばでした。想像力と技能が昇華した作品であり、そのアクロバティックな構図が見る者を魅了しました。「楽しく美しくわかりやすい」「でかけてみたくなる」多彩なパノラマ絵図が次々と誕生することになりました。各地の夢と希望が凝縮された鳥瞰図は観光ブームを演出した「時代のアイコン」だったのです。

### 《「サクラで「映える」》

昭和初年製作と思われる「岩国町名所図会」は、初三郎の商売がたきと目されていた鳥瞰図絵師金子常光の作品です。名橋錦帯橋とともに、「関西一のサクらの名所」と称された吉香公園がかわいが色鮮やかに描かれており、その花模様が見る者を現地に誘います。彎曲する錦川の緩やかな流れもまた情緒豊かに錦帯橋を演出しています。

鳥瞰図に添えられた案内文には、「春の桜花」「夏の納涼」「秋の紅葉」「冬の岩国」として四季折々の風情が掲げられています。こうした潤色に関わっていたのが明治41年(1908)設立とされる岩国保勝会でした。名勝錦帯橋の保護を基軸としつつ、周辺全域を岩国公園として捉え、景観の維持向上に努め、錦帯橋の魅力をよりいっそう引き立てる努力が払われていたのです。林学者本多静六による指導助言もあり「文化的景観」の保全が意識され続け、錦帯橋周辺のたたずまいは、今もなお、貴重な観光資源となっています。



一度は御覧遊ばせ錦帯橋を  
(一般郷土史料 B 170)

藤岡市助により明治42年(1909)に創業された岩国電気軌道株式会社作成の広告です。「名所図会」や「引き札」の雰囲気を感じることもできるチラシです。サクラとモミジをイメージした吹き出しに見える「雪・月・桜・梅・紅葉」が四季折々の錦帯橋の表情をあでやかに引き立て、旅情をかき立てます。



### 《モミジで「映える」》

長門峡観光の醍醐味は、阿武川沿いの渓谷美の探勝にありました。秋の山野を逍遙する「紅葉狩り」はそのクライマックスでした。長門峡の命名者である高島北海の百画会（作品頒布会）収入が長門峡保勝会による探勝路整備の資金にあてられました。

写真は、萩の書肆龍古堂発行の記念絵葉書の封筒（「天下ノ奇観 長門峡名勝 第二集」中村氏収集資料15、発行時期不詳）です。長門峡は県内有数のモミジの「映えスポット」としてその名を知られていました。

同じく龍古堂が昭和18年（1943）に発行した「探勝記念 絵巻長門峡案内」（折本、藤井家文書〈山口市1〉253）を展示しています。激流・奇岩・幽谷、それらを包みこむ山容がおりなす渓谷美の一大パノラマが、萩美術協会主宰の洋画家水沼兼雄によって描かれています。渓谷内の佳景地はモミジで萌えています。観光の魅力は、非日常を味わうことにあるとされます。描き出された別世界にひとびとは目を奪われるのでした。

絵巻裏面の案内文には、「緑り滴らんばかり」の春、「河鹿鳴き、若鮎・鯉の銀鱗が深淵の水面に踊る」夏、「全山の樹々其の梢は一度に紅葉し蜿蜒行路の眼下に荒れ狂ふ阿武川の千淵に映じては散り散つては映する」秋こそが「実に長門峡探勝の為めには第一の季節」とあります。

### 《海で「映える」》

山口県は三方が海に開けたロケーションにあります。海辺の景勝地は、青い海原、浮かぶ島影、砂浜と松原、荒波を打ち砕く奇岩などとともに描かれました。そこに繰り広げられた「エモい」情景はひとびとを海辺の観光地へと誘いました。

次に紹介するのは、大正14年（1925）に美祢線萩延伸を記念して製作された吉田初三郎画「萩名所図会」（佐倉谷家文書48）です。波音に包みこまれた指月山や菊ヶ浜、波間をたゆたう舟、夏ミカンとサクラ。海辺の城下町のイチオシの光景が、バランス良く色鮮やかに描かれています。



### 《描いて「映える」》

県下各地の風景は、このように、さまざまなかたちで描かれ再生産されていきました。地域の見どころや自慢の風景は魅力的に描かれ「映えて」いったのです。風景が地域の自慢のイッピンとして観光資源に昇華していたのです。

【関連資料】 ※シートNo.28紹介分は除く

- 「山口県大観」大正15年・金子常光画（一般郷土史料B8）
- 「秋穂観光霊場案内」（一般郷土史料B230）
- 「防長の観光」昭和10年か（一般郷土史料B16）
- 「新興仙崎 奇勝青海島周遊」昭和9年・堀自適画（一般郷土史料B208）
- 「名勝天然記念物須佐湾図絵」昭和3年・松仙画（一般郷土史料B287）
- 「周防岩国義濟堂図」明治15年（県史895）
- 「岩国を中心とする中国地方図」昭和12年（桑木正道収集資料13-86）
- 「長府名所古跡案内」大正3年（大島佐川家文書1199）
- 「長府名勝案内」大正14年・金子常光画（御園生431）